



レコードの魅力を手軽に 味わえるフォノイコライザー紹介

フォノイコライザーアンプの役目は、カートリッジの拾った微小な信号を増幅することと、レコードにかけられたイコライズ・カーブを元のフラットな信号に戻すこと。つまりフォノイコライザーがなければ、正しいアナログレコードの再現はできないのだ。手持ちのアンプにフォノイコライザーが搭載されていないなら、フォノイコライザーアンプを導入しよう。また、アンプ内蔵のフォノイコライザーを使っている場合でも、単体フォノイコライザーを使用することで音質のアップが狙える。ここでは、比較的廉価な製品を14モデル紹介する。導入の参考にさせていただきたい。

Text by
編集部

GT40α

¥55,200 ADL



●周波数特性:20Hz~20kHz (40 Hz: +0.5dB/15kHz: -0.5dB) ●SN比:90dB(ライン) ●端子:USB(Bタイプ) ×1、アナログ音声入力(MC-MM-LINE) ×1系統、アナログ音声出力 ×1系統 ●ライン入力レベル:MC 0.4mV/MM 4mV/LINE 2V ●サンプリング周波数:192,96,48,44.1,32kHz/24bit対応 ●サイズ:150W×57H×111Dmm ●質量:約650g ●取り扱い:フルテック

USB DAC搭載の多才なモデル

ADLは電源アイテムやケーブル類でオーディオファンに知られるフルテックのコンポーネントブランド。本機は192kHz/24bit対応のDA/ADコンバーターやヘッドフォンアンプを内蔵するUSB DACで、MM/MCに対応するフォノEQを搭載。デジタルオーディオファイルの高品位再生のほか、アナログ音源を高品質データ化できる。